保護者評価の集計結果（放課後等デイサービス）

令和5年2月28日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

保護者等数40 回収数30 割合75%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	①	子どもの活動などのスペースが十分に確保されているか	30	0	0	
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	30	0	0	
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	26	4	0	
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	30	0	0	
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	30	0	0	
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか	14	16	0	現在コロナ禍なので、制限があるため仕方ない状況。
保護者 への 説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について、丁寧な説明がなされたか	28	2	0	
	⑧	日ごろから子どもの状況を保護者と伝え合い、発達状況や課題について共通理解ができていますか	28	2	0	連絡ノートで伝え、反応、答えてくれて嬉しいです。
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	29	1	0	
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	13	15	2	現在コロナ禍なので、制限があるため仕方ない状況。
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	27	3	0	
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	1	0	
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	29	1	0	毎日のお便りは忙しい中保護者への安心と状況把握に大変うれしいことです。
	⑭	個人情報に十分注意しているか	27	3	0	
非常時 の 対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	25	5	0	
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	25	5	0	

特定非営利活動法人はじめのいっば

満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	30	0	0	外遊びや工作、調理等いつも楽しみにしており成長につながっています。
	⑱	事業所の支援に満足しているか	30	0	0	・安心して通所しています。 ・毎日のお便りや連絡ノートでやった事等が知ることができ、それを元に会話ができるので嬉しいです。

保護者等からの事業所評価の集計結果(児童発達支援) (公表)

公表：令和5年 2月 28日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

保護者等数(児童数) 10 回収数7 割合70%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7				・子どもの人数に対して広いスペースだと思う	法律で決められた一人当たりの床面積を確保する。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	6			1	・何人の先生で何の専門性なのかわからない。	保育士等の職員を適正数配置し、家族にも契約時等に説明する。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性にれた環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6			1		障がい特性を踏まえ、わかりやすく構造化された空間づくりを目指す。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6			1		毎日の清掃を継続し、子どもが活動しやすい家庭的な環境づくりに努める。
適切な支援の	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	6			1		適切な課題やニーズを計画に取り入れるため、丁寧なアセスメントに力を入れる。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6			1		今後も子どもの特性に合わせ、発達支援、家族支援、地域支援を組み合わせることで支援内容を設定する。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6			1		個々の支援計画に沿った活動プログラムを提供する。

提供	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	5	1	1	活動内容が毎回かぶらないように考えてくれていると思う。	今後も活動内容をチームで検討し、様々なプログラムを提供する。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	1	3	異年齢交流はあると思うが、障がいのない子どもと活動しているのか分からない	近隣の保育所等との交流を図るため、交流の提案を積極的に行う。
保護者へ	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7			回数や利用料金は一目でわかるようになっている。	契約時等に運営規程や利用料金の説明を丁寧に行う。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	6		1	ガイドラインが分からないので、基づいているのかも分からない。	ガイドラインにある提供すべき支援のねらい及び支援内容と、実際の支援計画を示しながら、支援内容を説明する。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	4	1	2	家族支援プログラムが具体的に分からない。	今後は2か月に1回を目安にペアレントトレーニングを実施する。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7			・毎日の便り、ノート、送迎時に子供の様子や状況を伝えてくれる。 ・日々連絡帳でやり取りしているので、比較的共通理解できていると思う。	今後も連絡ノートに加え面談等を通して、子どもの様子や課題についての共有に努める。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7			連絡帳で色々と相談等できていると思う。	今後も定期的な面談等を通して支援していく。

の 説 明 等	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	3	1	2	・コロナで難しいと思うが、参観日等があるといいと思う。 ・コロナ禍のため他の保護者との関わり等はないと思う	定期的に保護者が交流できる機会を提供し、保護者同士の連携を支援する。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	7				・日々の連絡帳や送迎時にできていると思う。	相談対応は随時電話や連絡ノート、面談にて行っていく。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7				・送迎時や連絡ノートで日々の様子を伝えてくれている。 ・連絡帳やSMSでやり取りできている。	今後も連絡ノート等を活用し、子どもの様子を情報共有していく。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	7				・利用日の便りや毎月の便り、半年に1回の面談でできていると思う。	今後も親しみやすく、わかりやすいお便りの発行を継続し、自己評価の結果も発信する。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	7					契約時に個人情報使用同意書を確認し、それに基づき情報を取り扱う。
非 常 時 の 対 応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6			1	・緊急時の対応マニュアルはもらった。その他は分からないが、訓練は毎月しているので、実施されていると思う。	マニュアルは作成しているが、訓練の実施ができていないときもあり、毎月実施する。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7				・子供が参加しているの訓練をしていないのか分からない。	定期的に行っていない時期もあり、毎月実施を習慣づける。

満足度	②	子どもは通所を楽しみにしているか	7			<ul style="list-style-type: none"> ・本人も楽しそうに通所している。 ・毎日「明日いっぽ？」と聞いて楽しみにしており、「ちこくするよ」と準備するのが早 	通所することが楽しくなる活動プログラムを提供し、親しみのある関わりを目指す。
	③	事業所の支援に満足しているか	7			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく通え、母子支援もしてくれ、相談にも乗ってもらえ、心強く、安心して子どもを通わせることができる。 	保護者へのアンケートのみならず、日常的に支援の内容について率直に話し合える関係作りが必要。

事業所における自己評価結果(放課後等デイサービス) (公表)

公表：令和5年2月 日

事業所名 はじめのいっぼ弥生

職員数9 回収数9 割合100%

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	0	法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保。
	②	職員の配置数は適切である	8	1	0	休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	3	2	子どもが自主的に行動しやすい環境作りをする。玄関にはスロープはないが、手すりがある。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	3	3	業務改善は毎月の職員会議等を通してPDCAサイクルを活用し、話し合いの時間を増やす。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	1	アンケートにより保護者の意向を把握し、改善に努めている。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	0	自己評価等をまとめ、改善内容等をホームページにて公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	9	今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2	0	職員には各種研修、講演会等に参加するようにする。
適切	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	2	0	個別の課題やニーズを計画に取り入れるため、今後も丁寧にアセスメントをする。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2	0	今後もアセスメントシートを活用し子どもの状態を把握する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	3	2	立案するスタッフが固定しないように職員全体で取り組む意識を持つ。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	2	1	発達段階や障がい特性、子どもの意向等を勘案し活動を検討する。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5	3	1	放課後や休日、長期休暇それぞれに課題を設定し、目的をもって支援していく。

な 支 援 の 提 供	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	2	0	子どもの特性に合わせ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、計画作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9	0	0	午前、午後の打合せでより具体的に支援内容の確認をしている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	5	0	支援内容や子ども様子等を打合せや情報共有ノートで確認している。終了後ではなく、翌日の打合せで伝えている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	3	0	支援内容より具体的に記録し、支援の改善につなげる。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	3	0	定期的なモニタリングを通して放課後等デイサービス計画を見直す。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	6	0	子どもの特性に合わせ、屋外活動や創作活動、地域交流等行っていく。
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	9	0	0
㉑		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の連絡調整、送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	8	1	0	随時学校と情報共有することで、適切な支援につなげる。
㉒		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	8	0	1	個人票に主治医を記載してもらい、連絡ができる体制を整えている
㉓		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	5	3	1	子どもの情報収集のため保育所等との連携を図る。
㉔		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	4	1	今後対象となる子どもがいる場合には情報提供等の支援を行う。
㉕		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	1	1	研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にする。
㉖		放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		1	8	児童クラブ等にアプローチをし、交流の機会を確保する。
㉗		（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	9	0	0	研修には参加してきたが、今後も積極的な参加を目指す。
㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	1	0	連絡ノートだけに頼らず、面談等を通して日常的に話しやすい体制を整える。	

	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	4	4	定期的ペアレントトレーニングを実施できるように準備を進めるをする。
保護者への説明責任等	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9	0	0	今後も契約時や見学等で説明するようにする。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	1	0	面談時等に助言しているが、悩みを抱え込んでいる保護者への支援が課題となっている。
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	2	6	コロナ禍により親子交流会は開催できていないが、感染状況をみながら再開を検討する。
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	3	0	契約時等に苦情対応担当者の説明をし、丁寧に苦情対応していく。
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	9	0	0	今後も親しみやすく、わかりやすいお便りの発行を継続する。
	③5	個人情報に十分注意しているか	7	2	0	契約時に個人情報使用同意書を確認、それに基づき注意して情報を取り扱うようにする。
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	2	0	絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	3	5	1	今後は会報等を通じ活動内容を発信し、行事に地域住民を招待する。
非常時等の対応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	3	0	災害マニュアル等を作成しているが、契約時等に保護者に周知できるように徹底する。
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7	1	1	定期的に行うため、年間計画に入れ、必ず実施するように会議で確認する。
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する、適切な対応をしているか	4	4	1	外部研修と内部研修を組み合わせ全職員に虐待防止の意識を高める。職員間で虐待についてしっかり勉強し、子どもへの対応を再確認する。
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	5	1	身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7	2	0	病院によるアレルギー検査結果を保護者と共有し、代替のおやつ等を提供することを徹底する。

	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	3	4	2	重大な事故につながらないように、日誌への記入の徹底と情報共有に努める。改めて、ヒヤリハットの大切さを話し合う。具体的な記入方法の共有。
--	----	----------------------------	---	---	---	---

事業所における自己評価結果（児童発達支援）（公表）

公表：令和 年 月 日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

職員数8 回収数8 割合100%

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	一人当たりの床面積を確保した定員となっている。	今後も一人当たりの床面積を確保した定員とする。
	② 職員の配置数は適切である	8	0		休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	個人の荷物入は、顔写真や個人マーク等幼児でも見てわかるものになっている。	障がい特性を踏まえ、子どもにわかりやすい空間づくりを目指す。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	朝の掃除と夕方の掃除を実施。	子どもが落ち着いて活動しやすい家庭的で清潔な環境作りをする。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	3		業務改善は毎月の職員会議等を通してPDCAサイクルを活用し行う。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	3		アンケートにより保護者の意向を把握し、改善に努める。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	改善内容等をホームページにて公開している。	職員会議にて評価結果を共有し、業務改善につなげる。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	8		今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	研修の情報収集に努めている。	今後も必要な研修、講演会等に参加する。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	アセスメントにより子どもの特性を把握し、支援計画を作成している。	個別の課題やニーズを計画に取り入れるため、今後も丁寧にアセスメントをする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0		今後もアセスメントシートを活用し子どもの状態を把握する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0		今後も子どもの特性に合わせて、発達支援、家族支援、地域支援を組み合わせる支援内容を設定する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	支援計画を支援に携わる職員が共有できるような工夫が必要。	支援計画の内容を全職員が日常的に確認しやすい方法を検討する。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	スタッフで話し合い、活動プログラムを作っている。	今後も様々な意見が出るようにチームで立案するよう心掛ける。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	季節や天候等を考慮しながら、活動が画一的にならないように配慮している。	発達段階や障がい特性、子どもの意向等を考慮し活動を検討する。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	8	0	個別活動と集団活動を組み合わせ、個性のある児童発達支援計画を作成している。	今後も子どもの状況に合わせて、児童発達支援計画を作成する。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	事前に打ち合わせをして活動プログラムや支援の内容を検討している。	今後も事前に打ち合わせをして支援の内容や職員の役割を確認する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	翌日の打合せで子どもの様子や支援の内容を確認している。	今後も朝、昼の打合せで情報共有することを習慣づける。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	毎日業務日誌を記入し、必要があれば支援方法を検討している。	業務日誌の記録を大切に、よりよい支援につなげていく。

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	8	0	定期的なモニタリングで、子どもの変化に合わせて支援計画を見直している。	定期的なモニタリングを通して定期的に支援計画を見直していく。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加している。	今後も事業所での詳細な状況を把握したうえで担当者会議に参加する。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	相談受付から関係機関と情報共有しながら、支援につなげている。	関係機関と顔の見える関係作りを大切にすることでスムーズな連携による支援を目指す。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	3		今後医療的ケア児を支援する際には、事業所として行う医療的ケアを確認しながら受け入れを検討する。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	3		今後も医療機関には協力してもらい、連携できる体制を整える。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	保育所等に子どもの様子を見学してもらったり、情報提供をしたりしている。	今後も移行支援として、保育所等との連携を図っていく。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0		移行支援する際には、行動特性や利用中の様子等の情報提供を行う。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	研修や講習会等に参加し、自己研鑽に努めている。	研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にする。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	8		近隣の保育所等との交流を図るため、交流の提案を積極的に行う。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	0	協議会等には参加するようにしている。	今後も研修に積極的に参加する。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	連絡ノートを使い、自宅と事業所での様子や課題を相互に確認している。	今後も連絡ノートに加え面談等を通して、子どもの様子や課題についての共有に努める。

	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	0	8	ペアレントトレーニングの講習会を受講し、専門的に実施できる体制作りをしている。	親子交流会等で定期的にペアレントトレーニングを実施する。
保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時等に説明している。	今後は保護者の理解度に合わせてより丁寧に説明する。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0		ガイドラインにある提供すべき支援のねらい及び支援内容と、実際の支援計画を示しながら、支援内容を説明する。
	③④	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	家庭や事業所内にて面談を実施した際に相談支援に努めている。	今後も定期的な面談等を通して子育て相談の支援していく。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	親子交流会はコロナ禍で今年度は行っていない。	定期的な親子交流会の再開を検討し、保護者同士の連携を支援する。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	相談対応は電話や連絡ノート等で日常的に行うようにしている。	相談対応は随時電話や連絡ノート、面談にて行っていく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対し発信している	8	0	お便りを毎月発行し、情報発信している。	今後も親しみやすく、わかりやすいお便りの発行を継続する。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0		契約時に個人情報使用同意書を確認、それに基づき注意して情報を取り扱うようにする。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8	0	送迎の際やSMS、連絡ノートで意思疎通や情報伝達に努めている。	今後も連絡ノート等を活用し、子どもの様子を情報共有していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	6	コロナ禍のため施設の行事には地域住民を招待していなかった。	今後は会報等を通じ活動内容を発信し、行事に地域住民を招待する。

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6	2		災害マニュアル等を契約時等に保護者に周知し、各種訓練を定期的実施する。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	2		非常災害計画に基づき、定期的に避難訓練を実施する。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	8	0	利用前には保護者から病気等にかかわる情報を聞き取っている。	今後も子どもの健康管理に配慮してサービス提供することを心掛ける。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8	0	食物アレルギー検査結果を保護者と共有し、おやつ等の際にアレルギー食品を確認し提供している。	食物アレルギーのある子どもには代替のおやつ等を提供することを徹底する。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	2	業務日誌に欄をもうけ、好ましくない出来事を記入するようにしている。	重大な事故につながらないように、日誌への記入の徹底と情報共有に努める。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	1	虐待防止に係る障害特性の理解等の研修を受けるようにしている。	外部研修と内部研修を組み合わせ全職員に虐待防止の意識を高める。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	5	3	身体拘束適正化のための指針を作成し、拘束が必要な時には適正に対応できるようにしている。	身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。